

生徒のよりよい読書習慣を育むために
—図書紹介をする活動を通して—

1 設定理由

『子どもの読書活動の推進に関する法律』の第2条（基本理念）には、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」とある。生徒の自主的な学習や読書活動を育む場である学校図書館は、教育活動において大きな役割を担うものである。

読書に関するアンケート調査の結果、「本が好きで読書をすることを楽しんでいるか」という質問には、「好き・どちらかというが好き」と回答した生徒は85%であり、読書には高い関心を示している。しかし、朝読書で読んでいる本は偏っており、図書室の利用は非常に少ない状態である。生徒がすすんで利用しようと思う魅力ある学校図書館であるための環境整備が必要であると感じる。

そこで、図書の紹介をするポップ作りを通して、読書の幅を広げたいと考えた。そして、作ったポップを活用して図書室前に図書コーナーを設けることで、図書室の利用の促進を図りたいと考えた。

また、本校は平成2017年4月より小中一貫型の学校として中学校の敷地に小学校が併設している。小中連携を図り、実際に小学生に向けての図書紹介を行うことで、生徒の読書への関心がさらに高まると考えた。

以上のような理由から、生徒のよりよい読書習慣を育むために本主題を設定した。

2 研究仮説

ポップ作りによる図書紹介を通して読書への関心を高めさせることで、生徒のよりよい読書習慣を育むことができるだろう。

3 研究内容

- (1) ポップ作りによる図書紹介
- (2) ポップ作りを生かした小中連携の実践
- (3) ポップ作りを通じた図書室の見直し

4 結論

○小中連携を生かした図書紹介の活動を行うことで、生徒児童ともに読書への関心が高まり、読書習慣を育むきっかけとなった。

○ポップ作りを通して図書室の環境を整備することで、生徒の図書への関心が高まり、図書室の利用者が増加した。

長生支部

長南町立長南中学校

江澤良樹

生徒のよりよい読書習慣を育むために

－図書紹介をする活動を通して－

1 設定理由

『子どもの読書活動の推進に関する法律』の第2条（基本理念）には、「子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。」とある。生徒の自主的な学習や読書活動を育む場である学校図書館は、教育活動において大きな役割を担うものである。

本校では、8：10から8：25までの15分間を「朝読書」の時間として位置づけ、全校で実施している。すべての生徒が本を読んでいるが、ジャンルに偏りがあり、また、図書室の本を読んでいる生徒は非常に少ない。

読書に関するアンケート調査の結果、「本が好きで読書をすることを楽しんでいるか」という質問には、「好き・どちらかというが好き」と回答した生徒は85%であり、読書には高い関心を示している。しかし、「図書室の利用頻度は一週間にどれくらいか」という質問には、50%の生徒が「0日」と回答している。さらに、「一か月にどれくらい本を読むか」という質問では、5冊以上という生徒は21%であるものの、2冊以下という生徒は過半数を超えている。生徒が図書室を利用する必要性をもち、自ら利用しようとする学校図書館であるための環境整備が必要であると感じる。

そこで、図書の紹介をするポップ作りを通して、読書の幅を広げたいと考えた。そして、作ったポップを活用して図書室前に図書コーナーを設けることで、図書室の利用の促進を図りたいと考えた。

また、本校は平成29年4月より、4つの小学校（長南小、東小、西小、豊栄小）が統合し、長南小学校となり、長南中学校の敷地内に併設されている小中一貫型の学校としてスタートしている。小学校には図書室がなく、教室の前に図書コーナーを設けている。小学6年生の教室は中学校校舎1階にあるが、同じく教室前の図書コーナーを利用している状況である。小中連携を図り、実際に小学生に向けての図書紹介を行うことで、生徒児童ともに読書への関心がさらに高まると考えた。

以上のような理由から、生徒のよりよい読書習慣を育むために本主題を設定した。

2 研究仮説

ポップ作りによる図書紹介を通して読書への関心を高めさせることで、生徒のよりよい読書習慣を育むことができるだろう。

3 研究内容

事前に読書や図書室に関してのアンケートを行った。（資料1）

（1）ポップ作りによる図書紹介

国語の授業で、図書室を活用し、ポップ作りを実践した。

対象：中学1～3年生 6クラス 161名

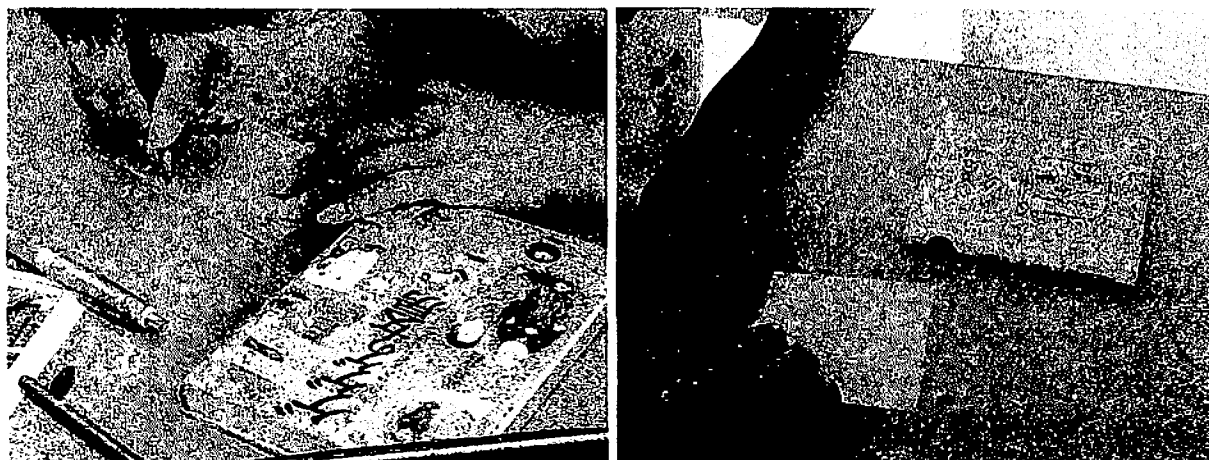
目標 紹介する本の魅力について、自分の考えをまとめ、工夫したポップを作製することができる。

時間	学習活動	留意点
1 2	○ポップについて知る。 ○ポップで作る本を決める。 ○ポップ作りをする。	○書店にあるポップの見本を見せることで、どのように書けば魅力的なポップができるかを考えさせる。 ○図書室の本でもよいことを伝え薦める。 ○ポップづくりの参考図書として、『POPの作り方』『キャッチコピーの書き方』等、参考の本を手にとれるようにしておく。
3	○ポップ作りで工夫したことを振り返る。 ○一覧にしたポップを見て評価をする。 ○なぜそのポップを選んだのか理由を明確にし、3作品を選ぶ。	○「本文の引用をした」「キャッチコピーを考えた」「見た目からイメージが湧くようにした」などを例として挙げておき、自分の工夫した点を書かせる。 ○どんな所に魅力があるのかを書かせる。自分が書店に行って手にとりたいと思うものを基準に選ばせる。

〔活動の実際〕

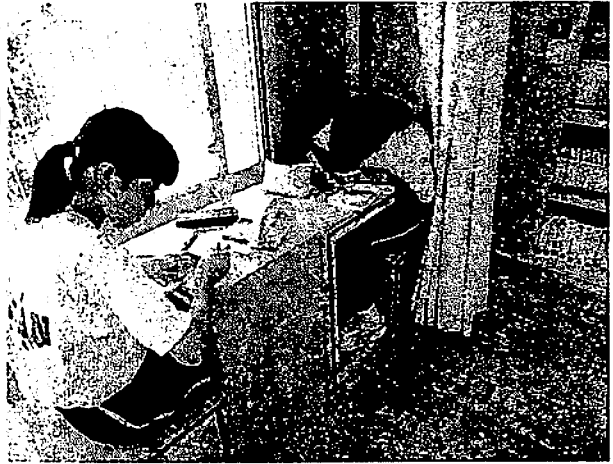
①ポップ作りによる図書紹介

長方形の色紙（縦 9 cm、横 12.5 cm）を基に、自由にポップを作らせる活動をさせた。縦でも横でも可とし、切ることも貼ることも生徒の自由とした。



活動は図書室で行った。座席は決めず、相談が自由にできる環境を作った。

机の上には、ポップ作りの見本として、「ポップの作り方」の本と、「キャッチコピーの書き方」についての本を置いた。



【図書室内の活動の様子】

参考の本を手に取り、キャッチコピーを考える生徒がいたり、色や形にこだわるなど様々な工夫をしたりする姿が見られた。話し合える雰囲気でも活動させたため、本の見所や登場人物の特徴などを語り合う姿もあった。



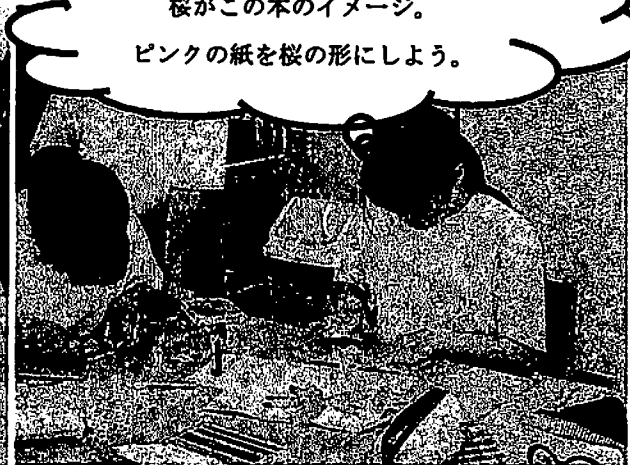
【お互い知っている本について話し合う生徒】

本のイメージに合わせて色や形を工夫する生徒もいた。見た目の派手さを重視している生徒もいたが、字の色、形など細部までこだわっている生徒が多かった。

泣ける内容だから、涙の形を付け足そう。



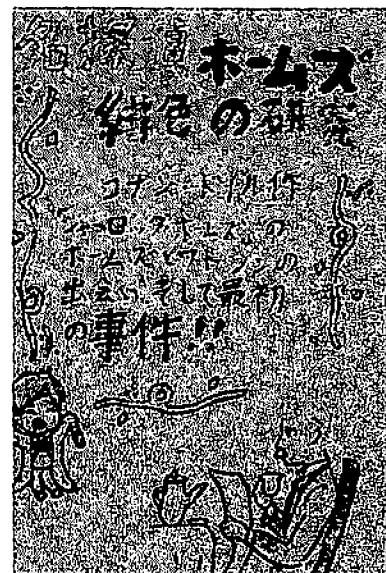
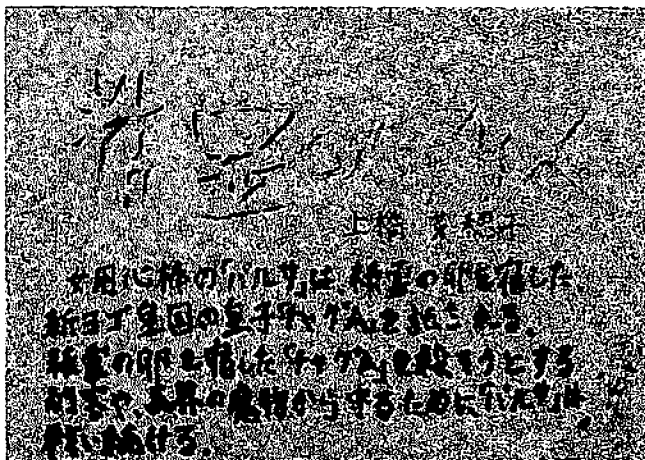
桜がこの本のイメージ。ピンクの紙を桜の形にしよう。



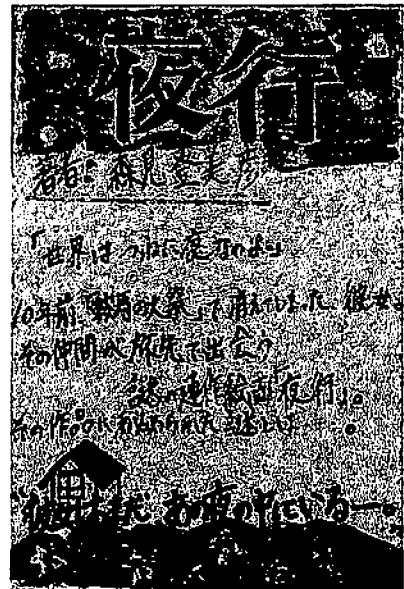
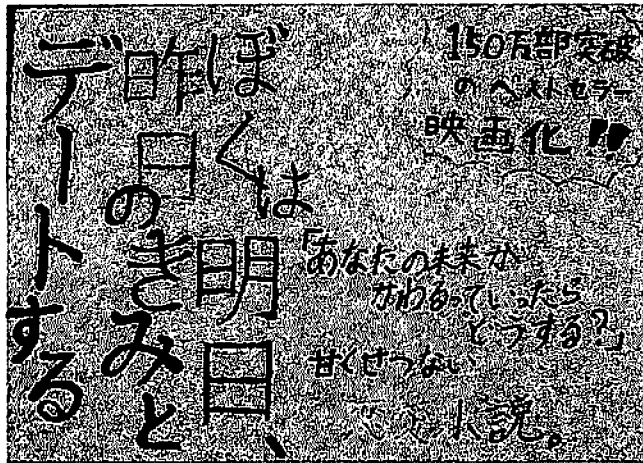
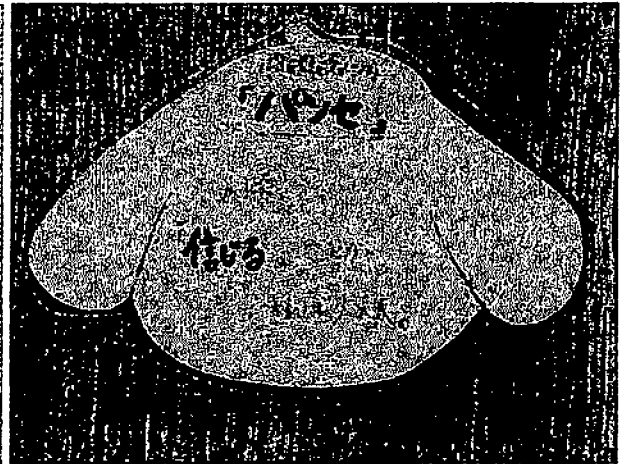
【色紙で装飾する生徒】

【生徒の優秀作品】

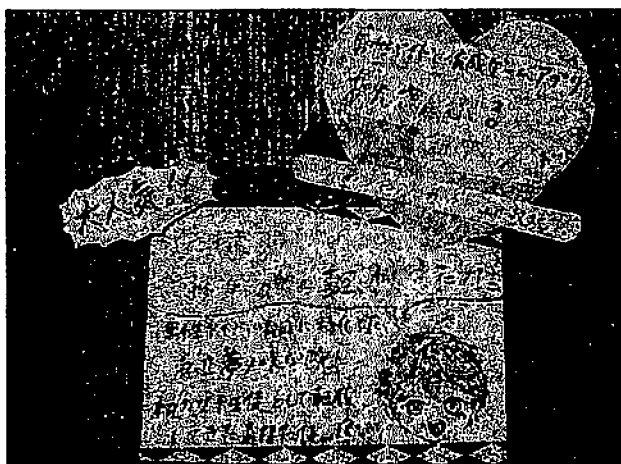
【1年生】

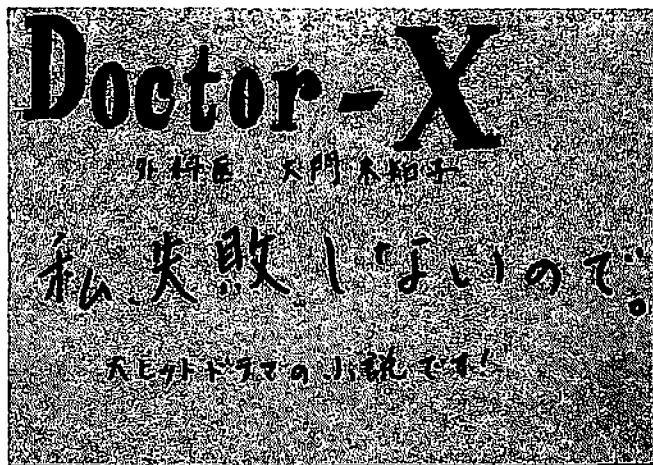


【2年生】



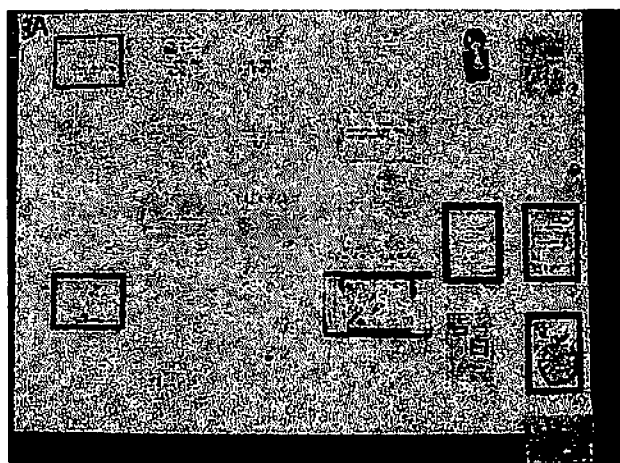
【3年生】



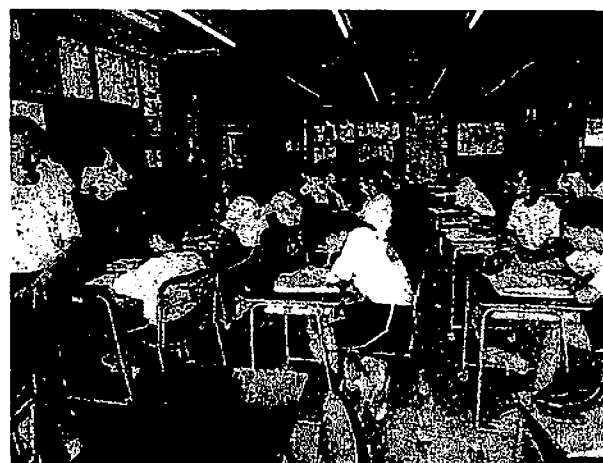


②投票・振り返り

優秀作品は、生徒が選んだ作品である。選ぶ基準は「手にとって読んでみたい」と思わせるポップかどうかであった。評価のポイントは、「一目で見やすい」ことや「イラストで本の内容がイメージしやすい」ことなどであった。また、「キャッチコピーとあらすじが簡潔に書かれている」、「文を読むと頭にどのような物語か浮かんでくる」などの理由もあった。



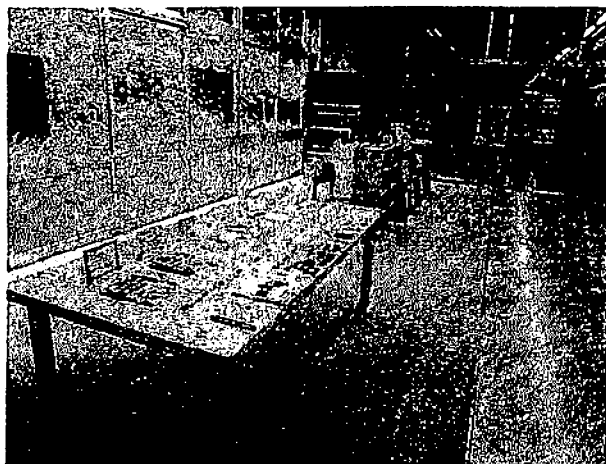
【学級ごとのポップ】



【ポップを評価する様子】

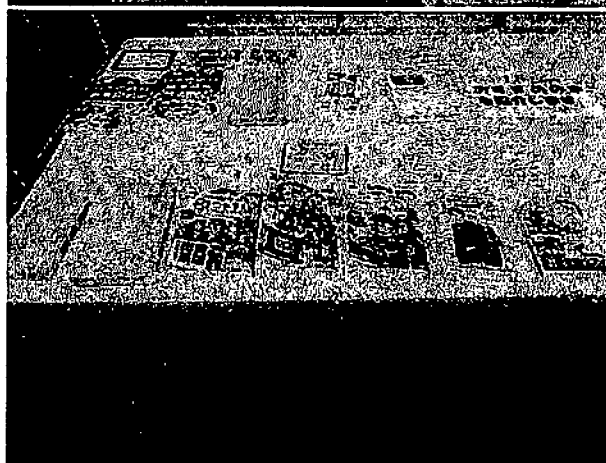
(2) ポップ作りを生かした小中連携の実践

中学校1年生が作製したポップの中で優秀な作品を、小学校6年生の教室前の廊下に掲示する実践を行った。この廊下は6年生の図書コーナーの側にあり、そこに中学校1年生からのおすすめの図書コーナーを設け、自由に手にとって読めるようにした。小学生は、読める本が増えたことや、中学生が自分たちに向けて作品を作ってくれたということで喜んでいる様子が伺えた。



〇〇先輩はこんな本を
読んでいるんだ！

【本について会話をする長南小学校児童】



【実際に貸し出しを行っている】

(3) ポップ作りを通じた図書室の見直し

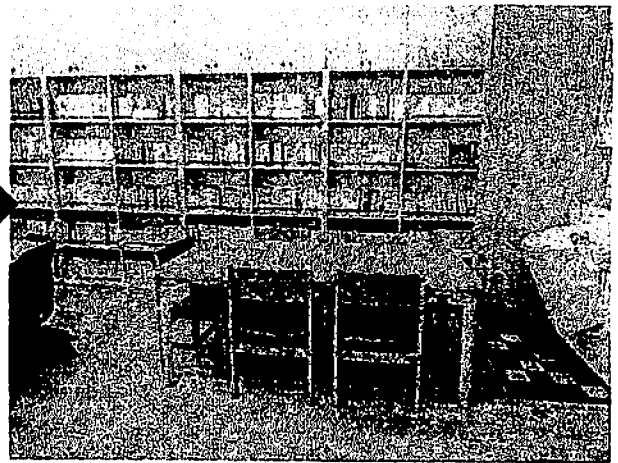
図書室を利用した授業を行うことで、図書室の環境の見直しが必要だと気付いた。生徒自身も図書室のアンケート調査においても、「椅子が少ないので増やして欲しい」、「読書したいと思うような場所にして欲しい」といった意見があった。そこで、図書室の環境を見直した。

①図書室で生徒が活動できるよう椅子と机を増やす

【以前の図書室】



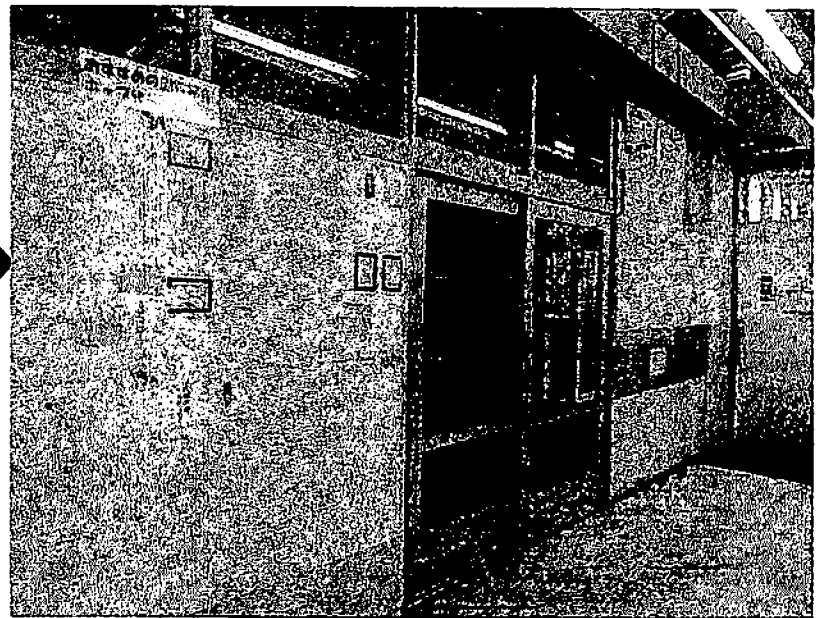
【見直した図書室】



②図書室前廊下にオススメ図書コーナーを作る

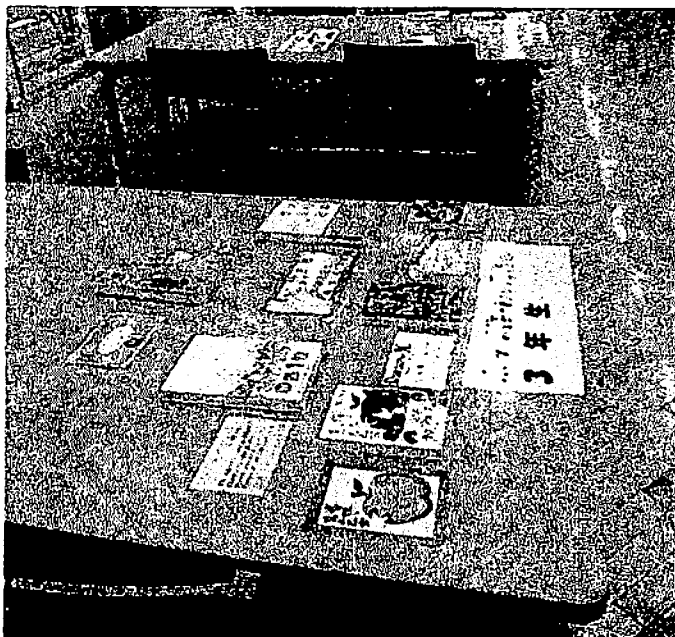


【以前の図書室前】



【図書室前の壁に全校のポップを掲示】

【図書室前の廊下に図書コーナーを設置】





【優秀作品は本を購入。実際に貸し出しを行っている】

4 成果と課題

(1) 成果

- ・ポップ作りを通して、本について生徒どうしが話し合う場ができ、本への関心が高まった。
- ・ポップ作りを生かした小中連携の実践を通して、中学1年生、小学6年生共に読書への関心を高めさせることができた。
- ・図書室の環境を整え、図書室前の廊下に掲示物を作ることで、図書室に足を運ぶ生徒が増えた。
- ・図書室を活用した授業を意図的に行うことで、読書に関心を持つ生徒が増え、図書室の貸し出し冊数が増加した。

(2) 課題

- ・ポップ作りを通して紹介する本は、自分が一度は読んだことがある本であったため、新たな本を探すことはなくジャンル偏ったままであった。
- ・作製したポップを図書室前の廊下に今回設置したが、今後は生徒の生活範囲や小学校の場所に設置するなど、生徒のよりよい読書習慣のために検討していきたい。

資料

【資料 1】

読書習慣についてのアンケートを全校に実施（全校 161 名中 151 名回答）

1. 図書室の利用は一週間にだいたいどれくらいか。
5日 (1.98%) 4日 (0.66%) 3日 (7.28%) 2日 (18.54%) 1日 (27.81%)
0日 (49.66%)
2. 図書室の本を借りるのはだいたいどのくらいか。
月に6冊以上 (1.32%) 月に4～5冊 (0.66%) 月に2～3冊 (9.27%)
月に1冊 (15.23%) 借りない (66.88%)
3. 本が好きで読書をすることを楽しんでいるか。
好き (49.66%) どちらかというが好き (35.76%) どちらでもない (7.94%)
どちらかという嫌い (5.29%) 嫌い (1.32%)
4. 一か月にどのくらい本を読むか。
5冊以上 (21.19%) 4冊 (5.96%) 3冊 (17.21%) 2冊 (23.84%)
1冊 (23.17%) 0冊 (8.60%)

5. 朝読書で読んでいる本のタイトルと出版社を書きなさい。

【複数人に読まれていた本の出版社（人）】

- ・KADOKAWA (13) ・双葉社 (10) ・講談社 (9) ・宝島社 (7)
- ・電撃文庫 (6) ・角川文庫 (5) ・スターツ出版 (5) ・新潮社 (4)
- ・角川つばさ文庫 (3) ・ガガガ文庫 (3) ・角川スニーカー文庫 (3)
- ・小学館 (3) ・ソフトバンククリエイティブ株式会社 (3)
- ・幻冬舎 (3) ・ピースログ文庫アリス (3) ・ファンタジア文庫 (2)
- ・MF文庫 (2) ・青い鳥文庫 (2) ・廣済堂出版 (2) ・実業之日本社 (2)
- ・徳間書店 (2) ・ポプラポケット文庫 (2) ・静山社 (2) ・集英社 (2)
- ・文春文庫 (2) ・メディアワークス社 (2) ・ダイヤモンド社 (2)

6. 同じ校舎にいる小学校6年生が図書室を利用するとしたら、中学校の図書室にはどんな工夫が必要だと思うか。（自由記述）

【多かった意見】

- ・小学生が読む本と中学生が読む本を分ける。
- ・小学生におすすめの本を紹介するコーナーを作る。
- ・年代にあった本を置く。年代によってコーナーを作る。
- ・どんな本があるのか紹介する。
- ・イス、机が少ないので増やす。
- ・小学生でも読みやすい本を置く。
- ・オススメの本を紙に書いて配り、人を呼ぶ。
- ・かざりをつけたり掲示物を作る。
- ・新書を増やす。

【資料2】

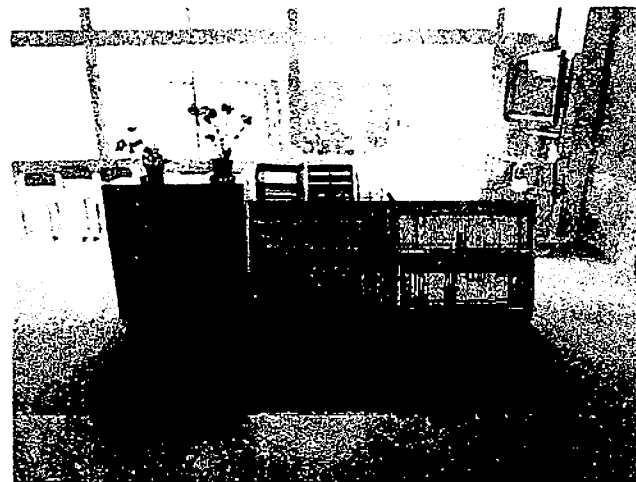
〔長南小学校の図書コーナー〕



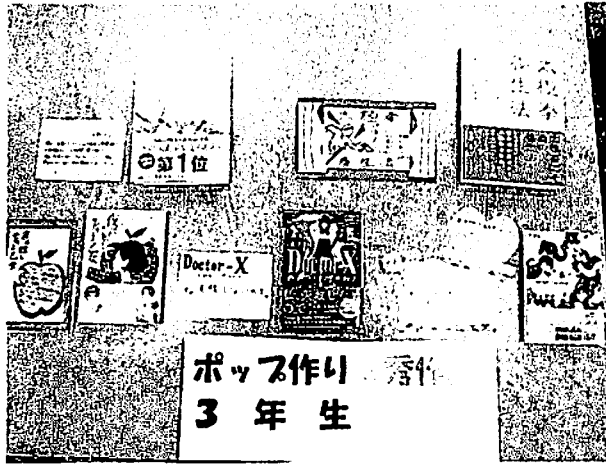
〔長南小学校二階廊下〕



〔長南小学校三階廊下〕



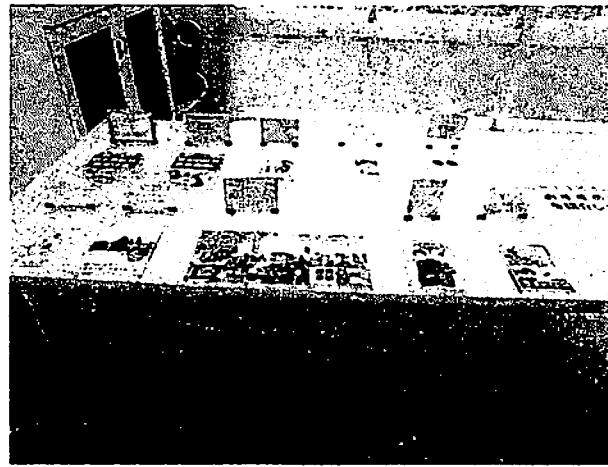
〔長南中学校一階〕



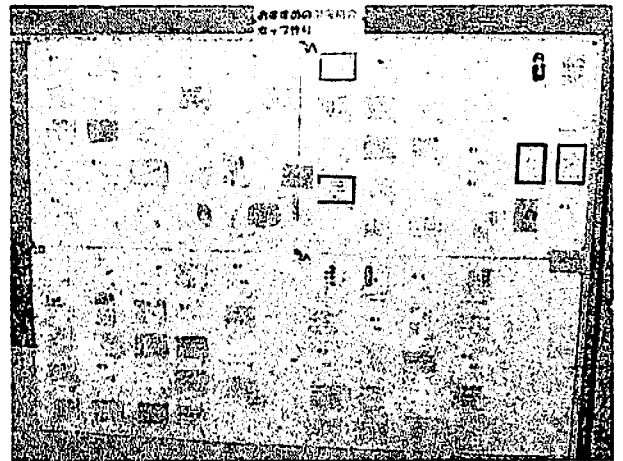
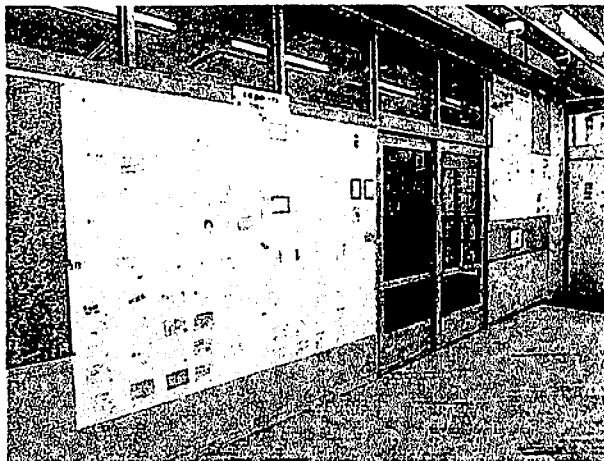
〔優秀作品3年生〕



〔優秀作品2年生〕



〔優秀作品1年生〕



〔図書室前掲示物〕